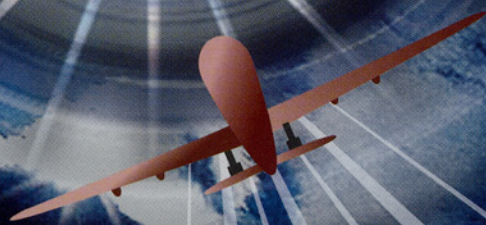


嵐の中の日本企業

—再生への道標—



10
12
火

「失われた20年」と日本企業

人文学部 教授 立松 潔

10
19
火

いま求められる
日本人の働き方・働かせ方

人文学部 講師 戸室 健作

10
26
火

日本製品のガラパゴス化の現状と今後
～携帯電話とデジタルカメラ産業を例にして～

人文学部 准教授 西平 直史

11
2
火

これからの企業資産
～カタチはないけど大事な資産～

人文学部 准教授 緒方 勇

11
9
火

モジュール化の進展と日本企業の課題

人文学部 講師 真保 智行

日 時：平成22年10月12日(火)～11月9日(火)
午後6時30分～8時10分

場 所：山形大学人文学部2階 205教室

対 象：一般市民・大学生・高校生 定員30名

受 講 料：一般市民 2,000円
(大学生・高校生は無料)

募集期間：平成22年9月13日(月)～10月6日(水)

■お問い合わせ先

山形大学人文学部事務ユニット

電話：023-628-4203

E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

嵐の中の日本企業

—再生への道標—

講座の概要

現在、日本企業を取り巻く現状は厳しいものとなりつつあります。デフレの進展を背景に、多くの企業が価格競争に巻き込まれ、一方では経済全体の成熟化と共に、雇用情勢が悪化し、その雇用システムを見直す必要に迫られている企業もあります。

本講座では、こうした現状を踏まえて、日本企業の直面している課題がどのようなものなのか、また日本企業はどのように対応しようとしているのかを、日本経済、労働、情報システム、会計、経営戦略の観点から考えていきます。

第1回目

10

12

「失われた20年」と日本企業

人文学部 教授 立松 潔

火 日本経済はバブル崩壊後現在に至るまで「失われた20年」とも言われるような低迷の時代を過ごしてきました。この時代の日本企業は、国内の需要低迷＝デフレ経済と、グローバル化に伴う競争激化への対応を迫られ、また2008年秋の世界同時不況では輸出市場の急速な縮小によって大きな打撃を受けることになりました。このような様々な困難に日本企業がどう立ち向かったかを明らかにし、今後の課題を明らかにしていきます。

第2回目

10

19

いま求められる日本人の働き方・働かせ方

人文学部 講師 戸室 健作

火 1990年代の後半以降、日本では正社員数が急減する一方、非正社員数が急増しました。特に日本の基幹産業であるモノ造りの現場では派遣形態の労働者が広く活用され、「派遣切り」によってその問題点が社会的に注目されています。本講演では、製造現場の派遣労働を事例にして、非正社員の活用に関する諸課題を具体的に指摘します。また、ディーセント・ワーク(人間らしい働き方)を求める新しい動き、コミュニティユニオン、「派遣村」等の事例を紹介します。

第3回目

10

26

日本製品のガラパゴス化の現状と今後

—携帯電話とデジタルカメラ産業を例にして—

人文学部 准教授 西平 直史

近年、「ガラパゴス化」という言葉をよく目にします。その例が日本で販売されている携帯電話端末で、非常に高機能でデザインも洗練されていますが、世界市場における市場占有率は低くなっています。一方、デジタルカメラは日本製品が世界市場で圧倒的な占有率をもっています。両者の違いをもとに、「ガラパゴス化」の問題点と今後の戦略を概観します。

第4回目

これからの企業資産—カタチはないけど大事な資産—

人文学部 准教授 緒方 勇

11月2日

火 今、新しい企業資産として、無形資産の重要性がますます高まっています。無形資産とは、ブランド、研究開発力、データベース、企業組織、社員の技術・知識、ノウハウなどのことです。これら無形資産の重要性の高まりは、企業の経営方法を大きく変化させ、また、企業の情報開示制度にも変化を迫っています。本講演では、無形資産によって企業経営のあり方や企業情報開示制度に何が起きているのかについて考えていきます。

第5回目

モジュール化の進展と日本企業の課題

人文学部 講師 真保智行

11月9日

火 液晶テレビや電気自動車といった製品では、モジュール化が進み、必要な部品を集めてくれば、誰もが質の高い最終製品を組み立てることができ、多くの企業が市場に参入してきています。そうした中で、日本企業は自らの強みを十分に発揮できずに、市場競争で難しい立場に立たされ、その一方で、外部からの生産受託に特化した台湾企業や、大規模投資に積極的な韓国企業が成長しています。そこで、なぜ日本企業の強みが生かされなくなったのか、また日本企業はどのようにして現状を打破しようとしているのかを解説します。

ここから切り離してお出ください。

02		払 込 取 扱 票										通常払込料金 加入者負担			
口座記号番号												金額		千 百 十 万 千 百 十 円	
0 2 2 6 0 7		9 2 4 7 8				2 0 0 0									
加入者名 国立大学法人山形大学				料金		備考									
※ 「嵐の中の日本企業—再生への道標—」申込書 ※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。(人文学部) ○職業をお書きください。() ○年齢をお書きください。() ○今後の連絡の便宜のためにEメールアドレスをお持ちの方は ご記入ください。() ※個人情報の利用について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、 第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー 等のご案内を本学からお送りする場合がございます。□承諾する □承諾しない (いずれかをチェック願います)															
おとこ (郵便番号)				様		日 附 印									
※ おなまえ				様		日 附 印									
(電話番号)															
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙第8982号)															
これより下部には何も記入しないでください。															

切り取らないでお出ください。

振替払込請求書兼受領証													
口座番号		0 2 2 6 0 7										通常払込 料金加入 者負担	
		9 2 4 7 8											
加入者名		国立大学法人山形大学											
金額		千 百 十 万 千 百 十 円											
		2 0 0 0											
おなまえ ※		様											
ご依頼人		様											
料金		日 附 印											
備考													

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。



この講座はゆとり都カレッジに参加しています。

- 募 集 人 員** ◆ 一般市民・大学生・高校生 30名
- 募 集 期 間** ◆ 平成22年9月13日(月)～10月6日(水)
- 受 講 料** ◆ 2,000円(大学生・高校生は無料)
- お申し込み方法** ◆ 下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講票をお送りします。
なお、大学生・高校生は、メールあるいは電話で、住所、氏名、電話番号、年齢を下記のお問い合わせ先にご連絡ください。
- お問い合わせ先** ◆ 〒990-8560
山形市小白川町1-4-12 山形大学人文学部事務ユニット
TEL: 023-628-4203
E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 会 場 案 内** ◆ 山形大学人文学部2階 205教室
大学正門を入って正面の建物です。
受付は人文学部正面玄関にて行います。
- そ の 他** ◆ **【公共交通機関ご利用のお願い】**
現在、山形大学小白川キャンパスでは、駐車場が非常に手狭になっております。公開講座当日はできるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意
この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。